



新年明けましておめでとうございます。

戦後70年の昨年は、戦争と平和、基本的人権と民主主義、自治と自立の有り様が問われる年となり、私たち労協連においても、自らの意志と覚悟が問われる年となった。

「私たちは今、世界史の中で、一つの国が格差などの果てに平和の理想を着々と放棄し、いずれ有無を言わせない形で戦争に巻き込まれ暴発する過程を目の当たりにしている。政府への批判は弱いが他国との対立だけは喜々として煽る危険なメディア、格差を生む今の経済、この巨大な流れの中で、僕達は個々として本来の自分を保つことができるだろうか。大きな出来事が起きた時、その表面だけを見て感情的になるのではなく、あらゆる方向からその事柄を見つめ、裏には何があり、誰が徳をするかまで見極める必要がある。歴史の流れは全て自然発生的に動くのではなく、意図的に誘導されることが多々ある。いずれにしろ、今年が決定的な一年になるだろう」。作家の中村文則氏が朝日新聞(1月8日)に「不惑を前に僕たちは」を題に投稿した内容である。

社会が、歴史が、今まさに大転換期を迎えており、特に日本社会においては、成長なき人口減少社会、超少子高齢社会に突入する。私たち労協連は、年頭にあたり、生活と地域を焦点に、市民の手、市民の主体的力による新しい地域、新しい社会創造に貢献するために、(1)生活困窮者支援制度

を社会的焦点に、困難にある人と共に働き、仕事をおこし、地域を創る、(2)持続可能な地域社会の創造に向けて、第一次産業の再生を展望する地域循環型産業に果敢に挑戦する、(3)昨年6月総会で確立した協同労働の協同組合の新しい原則に基づき、社会連帯経営と社会連帯運動を推進する、(4)協同労働の協同組合の法制化運動を再起動し法制化の実現をめざす。以上、決意を新たにした。

特に、35年以上の歴史と到達段階を踏まえ、現在の制度に依拠した事業(介護保険制度、指定管理者制度、生活困窮者制度)など「今を決定づけている力」(第2層)を基礎に、社会連帯運動の発展による第一次産業など「未来への希望の力」(第3層)、地域の達人たちの結集と社会的困難にある人びととのネットワークを基礎にした、暮らし・生活サポートなど「今と未来をつなぐ基礎的な地域力」(第1層)の事業を総合的に展開する協同労働運動の新しい段階を築いていきたいと考えている。

労協連は、2月27、28日に「全国よい仕事研究交流集会2016」を開催する。現在そこに向けて、地域と生活の必要に応える「よい仕事」とは何か、そのために何が問われているのか、協同労働の実践を基礎に、研究者、専門家と共にその可能性、課題を深める取り組みを全国から開始する。

「人間開発の観点から捉える仕事の概念は、職業あるいは雇用という概念より広く

深い。…仕事と人間開発は相乗効果を持つ関係にある。仕事は所得や生計をもたらす、貧困を減らし、公平な成長を確保することによって、人間開発を高める。また人びとに威厳と価値の意識をもたらして完全な社会参加も可能にする。そして他者の世話に関わる仕事は社会的結束を高め、家族やコミュニティの絆を強める」(国連人間開

発報告書2015『人間開発のための仕事』)。

協同労働による「よい仕事」が社会の連帯性を強め、新たな人びとの結集と関わる人びとの人間的成長と発達、その関係性をどう豊かに育み、地域をつくることができるのか、試される1年になる。

会員、研究者の皆さん、本年もよろしくお願ひ申し上げます。